

サンプル問題

高等学校入学試験

国語

試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

注意事項

1. 問題冊子と解答用紙を回収するので、両方に受験番号・氏名を記入すること。
2. この問題冊子は、19 ページあります。
3. 問題冊子や解答用紙によごれや印刷されていないところがあったら、手を挙げて試験監督を呼ぶこと。
4. 解答はすべて、解答用紙へ記入すること。

受 験 番 号			

氏 名

《一》次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

スーパーマーケットは、新鮮さやおいしさを視覚的に表現し、消費者の目に訴える新たな視覚性の構築とともに発展してきた。食品の生産過程で、「自然な」あるいは「おいしそう」な色^①が作り出されるときに、その色および味を保つことが小売店での重要な課題の一つとなったのである。商品の陳列や店内の照明、冷蔵ケース、包装容器など様々な技術や方法を駆使して、スーパーマーケットの美学ともいえる新鮮さの視覚化が行われてきた。

① ネットスーパーは、そうした消費者の視覚経験を大きく変えつつあるように見える。冷蔵ケースや陳列棚に所狭しと並んだ色とりどりの野菜や果物、肉、加工食品のパッケージに囲まれて買い物をするのがなくなり、店内に入ると目に飛び込んでくるはずの風景は、スマートフォンやパソコンの画面上に並ぶ商品の写真に変わった。そして最大の違いの一つは、自分が購入する食品を実際に手に取って見られないことだろう。

多くの場合ネットスーパーでは、どんな商品売っているかを消費者がイメージしやすく、また認識しやすくするため写真が掲載されており視覚情報が^A ティキョウされている。だが、それらの写真は実際にその店で販売している商品ではなく、一般的な画像写真であることも少なくない。その場合、商品の種類（例えば「トマト」など）は視覚的に判断できるものの、自分が購入する特定の商品を確認することはできない。

こうしたネットスーパーの写真、より^B ゲンミツには店に並んでいるまたは客が購入する特定の商品ではなく、② 一般化された物撮り画像は、食堂の入り口に置いてある食品サンプルに似た機能を果たすものだといえる。ネットスーパーで掲載されている写真の主たる目的は、消費者による商品の種類の認識であり、食べ物^Cの色・見た目は、それが何の食べ物であるかを示すための記号として用いられているのだ。ネットスーパー内では、例えば、黄色いバナナ、オレンジ色のオレンジ、赤いトマトの写真が並んでいる。ほとんどの消費者は、これらの色を何の疑問も持たず当たり前のも^Dとして食品を選択し購入するわけである。

これは、ネットスーパーが買い物客の五感経験を大きく変えたものの、a これまでの視覚の歴史からの断絶ではないことを示唆している。本書で見てきたように、食べ物の「あるべき」色・「自然な」色は、長い歴史の中で作り出されてきた。そうした色を人々が内面化し、ある程度共通認識を持っているからこそ、ネットスーパーの写真は成り立つのだ。つまり、多くの食品において、その色、また味や形が標準化されてきたこと、そして標準化された色を「自然な」または「普通の」ものだと思ってくれるようになったことによって、ネットスーパーが機能しうるのである。

ネットスーパーと同様に、私たちの食べ物の認識の仕方や食文化、そして消費のあり方を大きく変えようとしているものの一つにSNSが挙げられる。

大山顕が、写真は「見る」ものから「処理」するものになったと述べているように、写真は撮る・見るものであるだけでなく、SNSの写真においては「加工」「シェア（共有）」「いいね」することが重要となったのだ。この撮影から共有までの一連の操作は、被写体への態度も変化させた。SNSの写真には、日常の記録や思い出の保存というだけではなく、むしろそれ以上に、ユニークな見た目であることが求められる。よって映える被写体というのは、単に綺麗な色をしているとか、撮影者がおいしそうと思うものというよりは、多くの人の目にとって「面白い」ものということになる。それはSNS写真独特の美学である。佐藤卓己が論じるように、こうした写真は、見栄えを優先させる一方、被写体・素材の事実は軽視されがちである。つまり、「データ素材としてどのような加工もできるデジタル写真は、X のメディアというより Y のメディア」となったのである。

③ SNSで共有される食べ物の写真も同様で、それらは加工されたものも多い。b 白黒にしたり、コントラストを強めたりするなど、見た目のインパクトを強める工夫がなされている。SNSでは、掲載された写真が実際の姿とは異なることが許容され、c 期待されてさえいる。普段の料理や食卓の風景を撮影したものであっても、非現実的な色にはしないまでも、陰影やコントラストの D チョウセイは、おいしそうに見せるために重要な表現手

段となる。

なぜSNSなどで共有される写真では、見た目を「盛る」ための加工がなされ、見る人はそれをほぼ当然のように受け入れるのだろうか。そこには、SNSの写真が持つ役割が関係しているように思われる。ネットスーパースタールの写真と比べてみよう。先述の通り、ネットスーパースタールの写真は、食べ物（商品）を客に認識させるため（cognitive）のものである。そのためバナナは黄色く、トマトは赤い写真が、ある種の記号として挿入されるのだ。一方、SNSに投稿される写真は、見る者の情動を引き出すため（affective）のものではないだろうか。大盛りの料理や見た目が派手な食べ物などは、いわゆる「映える」ための写真として、色・見た目が作り出されている。自作料理の写真はどちらかというと「エモさ」を追求したものが多くといえるかもしれない。手作りのケーキや食卓に並べられた数々の料理は、派手さや斬新さというよりも、「おいしそう」とか「こんな料理を作るなんてすごい」、「自分も作ってみたい」といった、賞賛や羨望・憧れ、共感といった感情を見る者に与える。少なくとも、そうした感情を与えることを意図して投稿されることが多い。

もちろん写真に何が写っているかを認識させることは重要ではあるものの、自作の料理であれ、どこかのEメズらしい見た目の食べ物や大盛りの料理であれ、何かしらの感情（例えば面白い・楽しい・共感するなど）を抱かせることが、何の食べ物であるかということよりも優先される。ネットスーパースタールでバナナの欄にトマトの写真が掲載されているのは問題だが、SNSの写真では、それがバナナであろうとトマトであろうと究極的にはどちらでもよく、どのように撮られているか、または加工されているかがより重要なのだ。

情動を引き出すことが主目的になったことで、SNSでは写真に写った食べ物の色を「自然な」色に寄せる必要がなくなった。そのため、全ての写真ではないにせよ、実物を忠実に再現する以外の方法、つまり多くの人が考える自然な色から逸脱した食べ物の見た目を作ることが可能となったのだ。例えば、ネットスーパースタールの写真ではないような、ピンク色のバナナや真っ白なトマトがSNSのフィードに流れてくれば、それは映える写真として、

見る人たちの目を引き、「いいね」がたくさんつく可能性が高い。

しかし、ここで重要なのは、ある色・見た目が逸脱であると認識するためには、何がオリジナルかを知っている必要があるということだ。トマトは赤い野菜だという認識がなければ、白いトマトを見て「面白い」「映える」写真だと感じることはないだろう。多くの人が、この食べ物の色はこうあるべきだという認識をある程度共有しているからこそ、こうした逸脱が生まれ、見る人の目を引き、食欲を刺激する（または減退させる）のだ。つまり、ネットスーパーもSNSの画像も、本書で読み解いてきた一九世紀末以降の食べ物の色の構築の上に成り立つものであり、色の標準化や人工的に作られた自然な色という概念をある意味でより強固にするものだともいえる。

（久野愛『視覚化する味覚——食を彩る資本主義』岩波新書）

問一、——線部 Aゝ E のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方を平仮名で答えなさい。

問二、

a

く

c

に入れるのに最も適当なものを次のアゝオの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア、むしろ

イ、なるべく

ウ、必ずしも

エ、あえて

オ、しきりに

問三、——線部①とありますが、「ネットスーパー」が通常のスーパーマーケットと異なるのはどのような点ですか。次のアゝエの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア、新鮮さやおいしさを視覚的に表現するために、一般的な画像写真を用いている点。

イ、消費者の目に訴えるために、様々な技法や方法を駆使して新鮮さの視覚化を行っている点。

ウ、購入したいものをイメージすることはできても、実物を確認することは不可能である点。

エ、スマートフォンやパソコンで見て欲しいと思っても、それを簡単には購入することができない点。

問四、——線部②について、

1、この画像はネットスーパーにおいてどのような役割を果たしていますか。「〓としての役割」に続く形で文中から十七字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

2、この画像が1で答えた役割を果たすための条件は何ですか。文中の言葉を用いて四十字以内で答えなさい。

問五、

・

に入れるのに最も適当な組み合わせを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|----|---|----|---|---|----|
| ア、 | X | 保存 | ・ | Y | 処理 |
| イ、 | X | 認識 | ・ | Y | 共感 |
| ウ、 | X | 事実 | ・ | Y | 虚構 |
| エ、 | X | 記録 | ・ | Y | 表現 |

問六、——線部③とありますが、次の1～5のうち、文中の「SNS」における「写真」の説明として合っているものには○、誤っているものには×をそれぞれ答えなさい。

- 1、投稿者の中には、自身の料理に対するポジティブな感情を見る者に抱かせることを意識して写真を投稿する者も多い。
- 2、写真に加工などの工夫をすることで実際のものや姿とかけ離れてしまうことがあるが、見る者はそれを許容している。
- 3、加工して投稿された写真がトマトであったとしても、投稿者がバナナだという主張をしたら、見る者はそれをバナナだと認識しなければならない。
- 4、写真の投稿者はインパクトのあるものでなければ評価してもらえないという強迫観念に駆られているため、過剰なまでに加工を行っている。
- 5、写真を見る者は見栄えやインパクトだけでなく、その写真がリアルタイムで投稿されているかを「いいね」の基準としている。

《二》次の文章は、劇団ひとり『陰日向に咲く』の一節である。主人公の「私」は仕事でプレッシャーを感じていたある日、電車の中でボロボロの衣服に身を包んだホームレス（モーゼ）に出会い、彼から「自由に生きる獣の匂い」を感じ取った。その生き様に憧れを抱いた「私」は、モーゼの暮らす新宿南口の公園に、自身も「ホームレス」として頻繁に出入りするようになる。これを読んで、後の問いに答えなさい。

公園での生活は楽しく、週末になると、妻には地方出張だと嘘をついて、公園で寝泊りを繰り返した。毎週そんなことをしていたら普通は浮気でも疑いそうなものだが、すっかり冷めきった夫婦仲、妻にとつて私が家にいないことはむしろありがたかったようで、気持ちいいくらいに何も言わず送り出してくれた。

モーゼのように、長く公園に住む者は木材やシートを使って掘っ立て小屋を作り、その中で暮らしているが、週末だけの私はそうもいかないのに、路上や公園のベンチで寝泊りすることになる。これが夏ならさほど問題もないが、それ以外の季節は防寒対策が必要不可欠だった。

当初は何となくのイメージでダンボールさえあれば寝られると思っていたが、実際はそれだけでは寒くて眠れない。ダンボールはあくまでも風除けと地面に敷くマット代わりで、諸先輩方の寝床をよくよく観察すれば、四方を囲ったダンボールの中に布団やら寝袋を敷いている。

早速私も新宿東口からほど近いデイスカウトショップに寝袋を買いに行った。そこで初めて寝袋に二つの種類があることを知った。一つはミノ虫のように足の先が細くなったマミー型。もう一つは四角い形をした封筒型だ。私は形や用途よりも、そのネーミングに惹かれて封筒型を購入することにした。きっと封筒が私を退屈な日常からどこかの見知らぬ宛先へ運び出してくれる、そんな気がしたからだ。

寝袋を購入した後、公園に戻りモーゼにダンボールを分けてもらった。何枚も重ねられたダンボールの上から数枚を、無作為に手に取ったのだが、その中の一枚に「ワレモノ注意」のシールが貼られていて、まるで自分の精神

状態のような気がして可笑しかった。

もらったダンボールをガムテープで繋ぎ合わせて、中に寝袋を敷くと、それなりに小屋らしき物が出来て満足した。夜になり私は、ダンボールで出来た大人一人が寝られるほどの小さなポストの中に投函された。

①初めての夜は、興奮してなかなか寝つけなかった。

中学生の時、新しい学校に転校する前夜もこんな気持ちだった。どんな友達が出来て、どんな部活に入って、どんな女子と恋に落ちるのか、そんなことを考え興奮して眠れなかった。あの夜の僕と、この時の私は同じだ。

不安はあっても怖くない。不安が力になり自信になる。十五歳の自分に戻れた気がした。不思議なことだが、すべてを捨てたくて公園で寝ている自分の中に、すべてを手に入れられる自信が湧いてきた。

結局その日は、ポストの中で朝を迎えてしまった。真っ暗だったダンボールの中に次第に朝日が差してくると、目の前にちょうど「ワレモノ注意」のシールがあることに気がついた。

「②もう違えよ」

と言って、それを爪で剥がし、小さく丸めると、やっと封筒は眠りの中へ配達された。

寝床以上に大変なのは食べ物の確保だった。私は昼間、会社員として勤めているので稼ぎはあるが、ば郷に入れば郷に従え、ホームレスの時はなるべく金を持ち歩かないようにしていた。

ボランティア団体による配給などもあるが、やはりホームレスの基本は残飯だ。足を使い、飲食店やコンビニのゴミ袋の中から食べられそうな物を探す。新人の頃は大変だが、慣れれば大体どこの店になにかあるのか把握してくるので、効率よく店を回れるようになるらしい。どのホームレスも二、三軒は自分の馴染みの店を持っているものだ。

深夜、新宿西口からほど近い国道沿いにある一軒のコンビニの前で、私は一時間近く店の前を行ったり来たりしていた。

このコンビニにたどり着くまで、すでに二十件以上も回った。この、ゴミ置き場なら鍵もかかっておらず、そこに置かれた半透明のゴミ袋の中には弁当が見えている。やっと見つけた好都合な店だった。なのに私は躊躇していた。理由は単純。他人の目が気になっていた。捨てたはずのプライドがわずかに残っていたのだ。

周囲を気にしながら、ゆっくりと忍び寄り、人の気配がするたびに私は慌てて飛び離れ、いなくなったのを確認してから再びゴミ置き場へ近づく。深夜の割に客の出入りが激しい店で、そんなことをずっと繰り返していた。

一時間後、どうかして、初めてゴミ袋の結び口に手を掛けることができた。指先に全神経を集中させ結び口を解く。が、異常に小さくて固い結び口に手間取った。

そのせいで、人通りまで気を配れず、ついに店に來たOL風の客と目が合ってしまった。女性は私を憐れんだ目で見ていた。

誤魔化そう。

深夜にゴミ袋をホームレスが漁る姿は、誤魔化しようがないはずなのに、わずかに残っていた私のプライドがそれを許さなかった。きっと、彼女が美人だったのも理由だろう。

しかし、咄嗟に口から出た言葉は、情けなくなるほど薄っぺらだった。

「③あ、間違えた」

ゴミ袋を漁って一体なにを間違えたんだろうか。

失敗した、そう思った私は慌ててその女性の後を追って店内に入り、念のために持っていた千円札で弁当を買ってしまった。見えるように弁当を手にとって何度か彼女の前を通った。

「私は弁当を買う金を持っています」

とアピールするためだった。結局、何をどう誤魔化したかったのか自分でもわからなかったが、どう判断するかは彼女の想像力に任せて店を出た。

④ 公園にはすぐに戻らず、弁当の賞味期限が切れるのを待ってから戻った。そして、モーゼの元へ行き、
「今日はこれだけでした」

と言つて弁当を食べた。

間違つても買ったなんて言えない。それはホームレスとしてのプライドだった。

（劇団ひとり『陰日向に咲く』幻冬舎文庫）

問一、——線部 a、c の意味として最も適当なものをそれぞれのア、エの中から選び、記号で答えなさい。

a 無作為に

ア、気のむくまま乱暴に
ウ、意識せずであらめに

イ、躊躇せず手際よく

エ、何も考えず偶然にまかせて

b 郷に入れば郷に従え

ア、周りと調和をはかること
ウ、周りの都合に合わせることに

イ、周りの指示に従うこと

エ、周りの環境を重視すること

c 効率よく

ア、手間や労力をかけずに
ウ、時間を惜しまずにすばやく

イ、しっかりと練った計画どおりに

エ、段取りを綿密に考えて

問二、——線部①と対照的な内容が書かれている部分を文中から十六字で探し、初めと終わりの五字で答えなさい。

問三、——線部②とあるが、何が「違う」のか。次のア、エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア、これまでは精神的圧迫を受けながら生きてきたが、全てを捨てたことで念願の自由と自信を得た今は、かつての精神的に衰弱していた自分とは「違う」ということ。

イ、以前は会社に貢献する模範的な会社員であったが、モーゼに出会ったことで自分の生き方を考えさせられた今は、これまでの優等生的な自分とは「違う」ということ。

ウ、かつては自分の生き様に自信を持つことができなかったが、自由を得たことで自信を持てるようになった今は、以前の精神的に不安定だった自分とは「違う」ということ。

エ、昔は自由に生きることにより一抹の不安を感じていたが、ホームレスとなることで自由を手に入れた今は、これまでの精神的な悩みを抱えていた自分とは「違う」ということ。

問四、——線部③から読み取れる「私」の心情として最も適当なものを次のア、エの中から選び、記号で答えなさい。

ア、他人の弁当を盗むという反道徳的な行為に手を染めてしまったことに対する罪悪感。

イ、ホームレスとしてゴミ袋を漁っている自分の姿を見られたことに対する羞恥心。

ウ、金を持っているのにあえて捨てられた弁当を探すという自分の行動の矛盾に対する劣等感。

エ、自らの意思でゴミ袋を漁っているのだから放っておいてほしいという女性に対する反発心。

問五、——線部④とあるが、それはなぜか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア、自ら望んで公園での生活を始め、ホームレスとしての自尊心も持ち得る今となつては、ホームレスが金を払って弁当を買うことはあるまじき行為だと考えているから。

イ、会社や家族を捨ててまで公園での暮らしを開始し、今や完璧なホームレスになりつつあるため、このような行いをしてしまったことに後悔の念を感じているから。

ウ、自由を求めてホームレスとして生きていく決心をし、せつかくそのための環境を整え習慣を身に付けたのに、これまでしてきたことが水の泡となってしまうから。

エ、車内でモーゼを見かけて以来何かと世話になっているのに、ホームレスとしての生き様に反することをしてしまうと、きっとモーゼが失望してしまうだろうから。

問六、本文から読み取れる表現の特徴の説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、悠々自適な暮らしを満喫する「私」の姿を、現代社会に生きる人々の象徴としてリアルに表現している。
- イ、不安を自信に変える「私」の強さを示した男の生き方を、比喩を交えながら感覚的に表現している。
- ウ、理想とした生活の中で相反する気持ちを抱く「私」の様子を、わかりやすい文体で明確に表現している。
- エ、苦悩を抱える「私」が自由を手にするまでの過程を、心情の動きを的確に捉えながら繊細に表現している。

《三》次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

* おなじ少将、病にいたうわづらひて、少し * おこたりて 内に I まゐりたりけり。 * 近江の守
公忠の君、掃部の助にて、藏人なりけるころなりけり。その掃部の助に a あひていひけるやう、「みだり
心地はまだおこたりはてねど、いとむつかしう心もとなくはべれば □ まゐりつる。のちは知らねど、
かくまで待ること。まかりいでて、あさてばかりまゐり来む。よきに奏したまへ」などいひおきてまか
でぬ。三日ばかりありて、少将のもとより文をなむおこせたりけるを見れば、

くやしくぞ後にあはむと契りける ① 今日をかぎりと言はましものを

とのみ書きたり。いとあさましくて、涙をこぼして使に問ふ。「いかがものし II たまふ」と問へば、使
も、「いと弱くなりたまひにたり」といひて泣くを聞くに、 ② さらにえ聞えず、「みづからただいままゐ
りて」といひて、里に車とりによりて待つほど、いと心もとなし。 * 近衛の御門にいでたちて、待ちつ
けて * 乗りてはせゆく。五条にぞ少将の家あるに b いきつきて見れば、いといみじうさわぎののしりて、
* 門さしつ。死ぬるなりけり。消息いひ入るれど、なにのかひなし。いみじう悲しくて、泣く泣くかへ
りにけり。かくてありけることを、 * かむのくだり奏しければ、帝もかぎりなくあはれがたまひける。

(大和物語)

*おなじ少将……藤原季繩。すえなわ

*おこたりて……よくなつて。

*内……宮中。

*近江の守公忠……源公忠。当時、掃部助と藏人を兼ねていた。

*近衛の御門……陽明門。

*乗りてはせゆく……（車に）乗って走らせてゆく。

*門さしつ……門を閉じてあつた。

*かむのくだり……このようなこと。

問一、――線部Ⅰ・Ⅱを現代仮名遣いに直しなさい。

問二、……線部 a・b の動作主を次の ア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア、少将 イ、公忠 ウ、使 エ、帝

問三、——線部①とはどういうことですか。次のア、イ、エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア、今日で泣くのが最後だということ。

イ、今日で会うのが最後だということ。

ウ、今日で手紙を書くのが最後だということ。

エ、今日で治療が最後だということ。

問四、——線部②とありますが、それはなぜですか。次のア、イ、エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア、あたりの人々が声を上げて騒いでいるから。

イ、少将の和歌がこの上なく素晴らしかったから。

ウ、使者の声も耳に入らないほど、涙に暮れているから。

エ、使者が泣いてしまい、はつきりと話せないから。

問五、に入る二字の助詞を答えなさい。

問六、この文章は平安時代に書かれた『大和物語』の一節です。同じ時代に書かれた作品を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、おくの細道

イ、竹取物語

ウ、古事記

エ、新古今和歌集